

子育てを考える

最終回

こんにちは赤ちゃん訪問を通じて

いけぞえ助産院 池添 紀美代

今日の午前中は高松市委託の「こんにちは赤ちゃん訪問(乳児家庭全戸訪問事業)」に行ってきました。アパートの2階の明るい部屋で、元保育士の初産のお母さんと、1ヵ月半の男の子が待っていてくれました。私に向かってにこっと笑ってくれます。母子ともに順調でしたが、予防接種のこと、今後の母乳育児のことなど真剣に聞いてくださるので、つい話しこんで2時間がたっていました。

午後は綾川町の委託で二人目を出産後の若いお母さんのお宅へ訪問しました。2軒の家が廊下でつながっていて、訪問中に2歳のお姉ちゃんは、おばあちゃんの家と行ったり来たりです。ひいおばあちゃんも元気で、育児に協力してくださるそうで、お母さんは楽しく育児ができていた様子でした。今日の訪問はお二人とも母乳がよく出て、赤ちゃんも順調で、私もうれしい気分でした。

生まれた赤ちゃんを抱いて退院してからの1~2ヶ月は、とても大変で不安なものですね。かけがえのない命を守る重圧と、良い育児をしたいという思い、慣れない赤ちゃんとの生活に疲れてしまうのは、多くのお母さんが経験することですが、そんな中で産後うつや虐待の問題が起こっ

てくる場合もあります。この時期に保健師、助産師などが訪問して赤ちゃんの体重増加をはじめ、発達や、お母さんの心身の状態を聞かせていただいた上で、個別にアドバイスをしたり、市町の育児情報を伝えたりします。

私は高松市、綾川町で年間150件ぐらいの訪問をしています。香川県内で産まれる赤ちゃんは年間約8,500人で、その内約60%を28名の助産師会会員が訪問しています。

昭和48年から希望者への訪問指導はありましたが、平成19年から全戸訪問の方針となり、今は児童福祉法の事業として全国で実施されています。

期待して待ってくださっている方が多いのですが、ご自分で順調だからと必要を感じない方、また、見知らぬ他人が訪問することに抵抗がある方もいらっしゃいます。電話連絡がつかなかったり、拒絶をされたりなかなか大変なところがありますが、事業開始から5年が経ち、だいたい



お母さん方に認知されてきたように思います。

訪問は1回のみのお会いです。この機会に母子の状況を把握し、適切なアドバイスを行うことはなかなか高度なコミュニケーション能力や豊富な知識、技術が必要です。

母乳が足りていると思っていたのに体重が増えていなかった場合は、母乳分泌を増やすための方法を一緒に考え、その後の赤ちゃんの発育を確認できるようにします。2回目の訪問ができる市町もありますし、保健師さんにフォローを依頼する場合があります。

お母さんの心理面に配慮する工夫がされていて、うつ傾向や育児不安が強いなどの場合は保健師さんに伝えます。複雑な問題があり、継続しての支援が必要な家族は、高松市の場合は養育支援訪問事業につながっていくこともあります。

振り返ると訪問活動を始めて20年になります。たくさんのお母さんと赤ちゃん、そして家族の姿に出会ってきました。「お母さんは皆、赤ちゃんのためにとがんばっているなあ」と思います。赤ちゃんの成長の速いこと! 笑うようになった、うれしいと高い声が出るようになった、寝返り

をしたなど、ひとつひとつの感動を大切に、育児を楽しんでほしいと思います。困ったらさまざまな育児支援があることを思い出してください。

高松市の訪問担当助産師の定年は70歳です。もうしばらく続けますので『おばあちゃん来た!』と思われるかと少し気になるころですが、よろしくお祈りします。

池添 紀美代(いけぞえ きみよ)

- 昭和42年4月 国鉄中央保健管理所勤務(東京都)
- 昭和47年3月 香川県看護専門学校
公衆衛生看護助産学科卒業
- 昭和47年4月 保育所勤務
つくし保育園(高松市)他
- 昭和53年2月 奈良県立医大病院産科病棟勤務
- 昭和63年4月 久産婦人科医院勤務(奈良県)
- 平成 3年6月 いけぞえ助産院を開業(綾川町)
- 現在 社団法人香川県助産師会副会長

